

川へ行こう！ 川を楽しもう！



かわたび
ぼっかいどう

留萌川の歴史と治水事業



江戸時代から振り返る 留萌の移り変わり

江戸時代

河口の場所は昔からアイヌの人たちの集落があった場所で、当時は“コタン”と呼ばれていました。特に留萌川河口付近の大きな集落は「ルルモッペ」と呼ばれており、ここには古くからアイヌの人たちが住んでいました。

当時のルルモッペはアイヌの間でも有力者が住む大きな集落であり、コタンピルの肖像画には山丹交易で得られたものが多く見られました。サハリン経由で北海道に入ってきたものを山丹交易さんたんと言い、彼はこのルートの重要な担い手であった可能性が強いと考えられています。



山丹交易とは

まつまえはん
松前藩がアムール川下流に住む山丹人さんたんから中国本土の産品を、樺太からぶと(サハリン)や宗谷そうごのアイヌを仲介して行っていた交易のことです。

解説

エゾ錦



さんたん
山丹交易で入手した中国本土産絹や清朝官服のこと。幕府にも献上されていた程華美で豪華なものでした。

腰につるした太刀

立派なものであり、彼がとてつゆ福な家系だつたことがわかります。



皮のきゃはん



すね
脛の部分に巻いて、保護するもの。江戸時代から広く使用されていました。



ルルモッペの村長「西蝦夷地ルルモッペ酋長コタンピル肖像」
(出展：天理大学附属図書館蔵)

ニシン漁の歴史

◆ ニシン漁の始まり

留萌の沖合は江戸時代から蝦夷地有数の漁場として知られており、蝦夷地での本格的なニシン漁は松前地方（現在の八雲町から函館市まで）の海岸線から始まりました。元禄年間(1688-1704)に入ると、さらに北の西蝦夷地に出稼ぎをする人が増え、弘化元年(1844)には留萌にもニシン漁民が入ってくるようになりました。

◆ 留萌で最初のニシン漁場

旧留萌佐賀家漁場



旧留萌佐賀家漁場（出展：留萌市教育委員会）
住所：北海道留萌市礼受町13

留萌へ最初に出稼ぎに来た漁民の1人佐賀平之丞が現在の佐賀家漁場にニシン漁場を開きました。

留萌市でのニシン漁の歴史
はここから始まったんだMO!



KAZUMOちゃん
ニシンの卵「カズノコ」を
モチーフとしたキャラクター

▲旧佐賀家漁場（留萌市）紹介動画
（提供：留萌観光連盟）

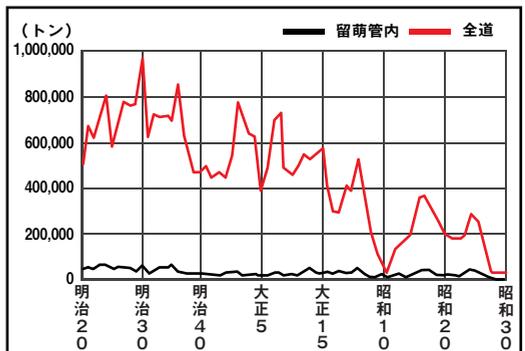
平成9年3月11日に【国指定史跡】に指定されました。
留萌市主催の一般公開が行われています。詳しくはHPをご覧ください。

◆ ニシン漁の移り変わりと衰退

明治9年(1876)開拓使は漁場持ちを廃止し、ニシン漁場を開放して営業は自由になり、漁獲量は増えニシン漁は盛んになっていきました。

しかし、明治30年(1897)まで順調に漁獲高を伸ばしてきたニシン漁にも、停滞衰退の兆しが見え始めます。

漁獲高が減少し始め昭和30年(1949)の留萌238トン、全道2万7千235トンを最後に北海道沿岸のニシン漁は終わりを迎えました。



全道のニシン漁獲量の推移(明治20年～昭和30年)
(出展：留萌市教育委員会)

交通路としての留萌川

明治時代

留萌川の河口は幅が64m、深さが満潮時には6m、千石船が2～3艘停泊できました。また、90m程の橋がかけてあり、それは舟の廃材で作られていました。



出展：北海道大学附属図書館北方資料室蔵

留萌川の開拓

当時の入植者は鬱蒼とした森林を切り開いていきました。大木を切り倒し、枝を刈って積んで焼く。幹は薪にし、冬の間川に印をつけ積んでおき、春先の増水時に留萌まで薪を流送しました。

また、留萌沿岸はニシン漁が盛んな時代であり、ニシンの粕を炊く薪としての需要が大きく、開墾途中の開拓民にとっては貴重な現金収入になりました。

23線藤山の神社の下に船着き場がありここから留萌に下り、下りは1日、上りは3日を要しました。(薪1敷が流送しないで約50銭、流送して約1円)

留萌川では薪の流送の他、明治39年頃まで石炭も船で運搬されていました。

交通路のルート

物資を求めに行くのにも、収穫物を出荷するのにも留萌との行き来は主に船でした。

また、日本海側と石狩地方の内陸部を結ぶ古くからの道は、主に初春^{かたゆき}堅雪の頃に使用されていました。

◆ チバベリ川からイタイルベシベ（峠）を越えて恵岱別川に出るルート



留萌
里十六町

◆ 留萌川の由来

留萌はアイヌ語で「ルルモツペ」と言い、「川の流
れが緩やかで、満潮になる
と緩やかに海水が川をさか
のぼっていく所」という意
味をもっていました。

出展：東西蝦夷山川地理取調図 松浦武四郎記念館蔵

留萌川の主な洪水と治水事業の経緯

昭和35年度をスタートとする留萌川総体計画を受けて改修工事が続けられる昭和46年度までを前半期とするならば、**1級河川**に昇格し国の直轄河川として飛躍的に工事規模・内容が拡充される昭和47年度以降の時期が後半期といえます。

主な洪水と治水計画

- S22.8 前線を伴う低気圧**
流域平均雨量（大和田） 115mm/2日
- S26.9 前線・低気圧**
流域平均雨量（大和田） 181mm/2日
- S28.7 前線**
流域平均雨量（大和田） 203mm/2日
- S30.7 低気圧**
流域平均雨量（大和田） 136mm/2日
- S30.8 前線**
流域平均雨量（大和田） 164mm/2日
- S35 留萌川改修総体計画**
計画高水流量（大和田） 660m³/s
- S47 一級水系指定**
- S49 留萌川水系工事実施基本計画策定**
基本高水流量（大和田） 1,000m³/s
計画高水流量（大和田） 800m³/s
- S50.8 台風6号**
流域平均雨量（大和田） 149mm/2日
- S56.8 前線**
流域平均雨量（大和田） 213mm/2日
- S63.8 前線**
流域平均雨量（大和田） 325mm/2日
- H5.4 留萌川水系工事実施基本計画改定**
基本高水流量（大和田） 1,300m³/s
計画高水流量（大和田） 800m³/s
- H11.12 留萌川水系河川整備基本方針策定**
基本高水流量（大和田） 1,300m³/s
計画高水流量（大和田） 800m³/s
- H13.10 留萌川水系河川整備計画策定**
基本高水流量（大和田） 1,300m³/s
計画高水流量（大和田） 800m³/s
- H30.7 前線**
流域平均雨量（大和田） 168mm/2日



昭和30年8月洪水 大和田市街地



昭和50年8月洪水 大和田市街地



昭和56年8月洪水 留萌市街地



昭和63年8月洪水 留萌市街地中心部



留萌川の変遷とまちの発展

昭和30年洪水を契機に下流市街地の築堤や河川の切替工事が進められました。

◆ 昭和40年代以前

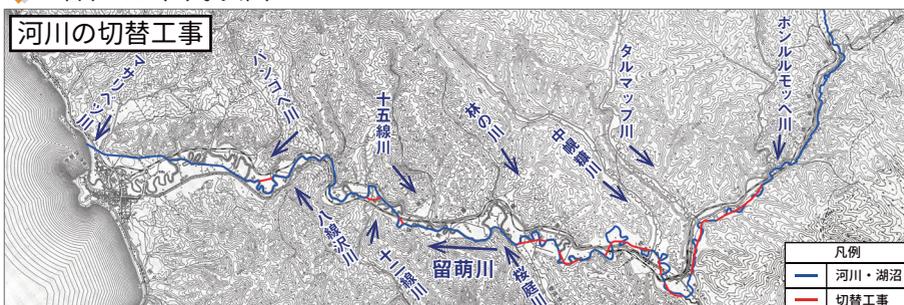


下流部や中流部で河川の切替工事を行いました。



海岸沿いに市街地が広がり、留萌川沿いでは畑作が中心でした。

◆ 昭和40年代以降



上流部で河川の切替工事を行いました。



留萌川沿いでは畑作から水害に強い水田の占める割合が多くなりました。

留萌川の主な洪水対策

ゆうすい ち

大和田遊水地

しゅういいてい

周囲堤

遊水地と民家のある土地を隔てる堤防のこと。

えつりゆうてい

越流堤

堤防の一部を低くし、遊水地へ水を流し込む構造になっています。表面がコンクリート等で覆われており、とても頑丈な造りとなっています。

洪水時に水が流れ込みます。

貯めた水は排水樋門から出します。

塩州橋

留萌川

JR留萌本線

国道223号

洪水時



イメージ

い ちゅう てい

囲いよう堤

遊水地と川を隔てる堤防のこと。

はいすい ひ もん

排水樋門

遊水地に溜めた水を留萌川の水位が下がった時に、徐々に留萌川に流します。

大和田遊水地の目的

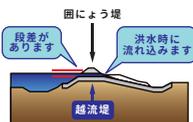
大和田遊水地は、3つの目的で建設されました。

- ① 下流市街地の洪水被害軽減
- ② 大和田地区の冠水頻度の軽減
- ③ 上流地区の改修促進

大和田遊水地のしくみ

大雨時、河川の増水による洪水を防ぐため、大和田遊水地に上流から流れてきた水を一時的に大和田遊水地に溜めることで下流市街地に流れる水を少なくしています。

越流堤



排水樋門



過去に多くの水害に見舞われてきた留萌市。
洪水時の流量を減少させる対策として、
留萌ダムが建設されました。

楽しいイベントがたくさん

市民団体「るもいエコ村」主催のイベント

るもいエコ村とは留萌ダム周辺の環境保全や楽しく交流するイベントを市民が主体となって取り組んでいる団体です。（日本ダム協会の「ダム建設功績者表彰」を受賞しました。）



るもいエコ村夏の陣(8月)



クリスマスリース教室(12月)



ダムを灯す雪灯り(2月)

インフラツーリズム

なかなか入る機会のないダム等の公共施設を近くで体感することで、理解を深めて頂くことを目的に様々なツアーを実施しています。



留萌管内産の酒米を原料とした純米原酒を4月頃から9月頃まで貯蔵しています。*



留萌ダム見学会ではダムの内部を見ることができます

※北海道留萌振興局が取り組む「ダムを活用した特産品開発」に協力し、温度変化の小さいダム内部で平成31年より日本酒を貯蔵しています。



留萌ダムの目的

留萌ダムは、3つの目的で建設されました。

- ①ダム下流域の洪水被害を軽減
- ②ダムの水を放流し水環境を改善
- ③留萌市の水道用水の供給

留萌ダムのしくみ

大雨時、河川の増水による洪水を防ぐため、留萌ダムの上流に降った水をダムに貯水し溜めることで、下流に流れる水を少なくしています。

留萌ダムの空撮動画▶



留萌川の河川整備による効果

留萌川の整備を進めることで地域経済の発展に結びつきます。

留萌川治水事業の推進により 黄色いダイヤを洪水から守る！



KAZUMOちゃん

留萌川を整備することで
洪水が減って「かずのこ」
を守ることができるんだMO～！

かずのこのまち留萌

- ◆ 留萌市の**かずのこ**は生産量日本一(全国シェア30%以上)
- ◆ 昭和63年出水では水産加工場含む街の1/3が浸水
- ◆ 安定した生産・流通には、治水事業の推進が重要

過去の留萌川の洪水被害(昭和63年)



留萌市街地の浸水状況



留萌市は伝統あるニシン加工の技術を活かし、カナダ・アメリカ・ロシアなど外国の冷凍ニシン・原卵を他の地方に先駆けて輸入し、地元の水産加工会社の努力によって、現在では全国**1位**の生産量と品質と評価されるようになりました。

治水事業の推進 治水事業の推進により浸水被害解消！



留萌ダム(平成21年度完成)



大和田遊水地(平成21年度完成)



河口導流堤と河道掘削

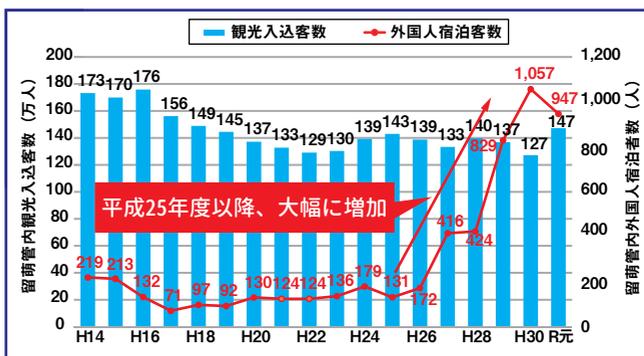
かわたび北海道の取り組み

水辺の活用に係るニーズの発掘・マッチングの促進、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献するプロジェクトが「かわたび北海道」です。

留萌市街地の風景

水辺を活用したイベントを実施しています。

川の自然環境、景観、水辺環境、サイクリング環境等を活用したインフラツリーズを推進しています。



「留萌管内観光入込客数及び外国人宿泊客数について」(出展:北海道留萌振興局)

るもい川まつり



るもい川まつりの動画▶

留萌市クールチョイスエコツア-

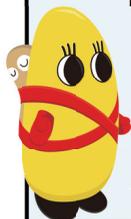
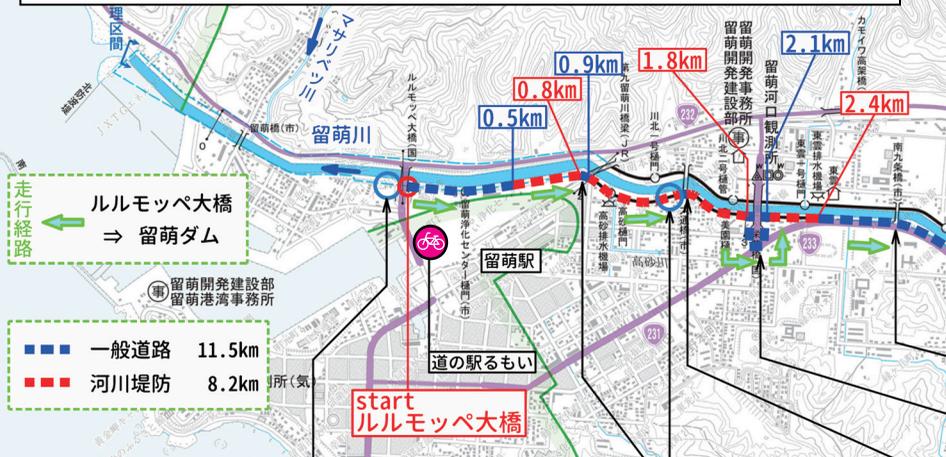
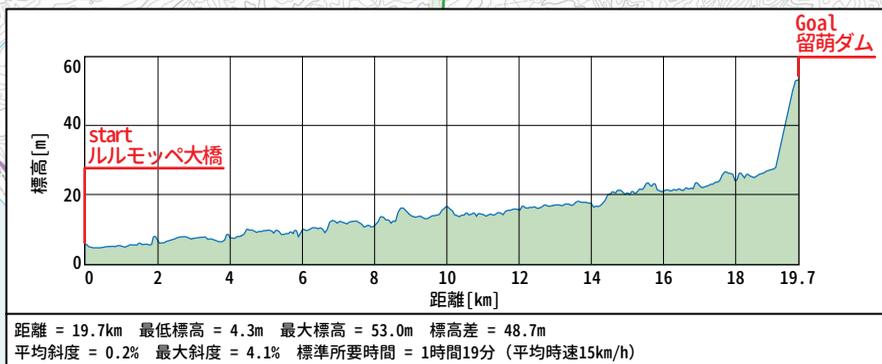


川の自然観察会



留萌川のサイクリングマップ

留萌川のサイクリングマップ(留萌市街地～留萌ダム) 1/2



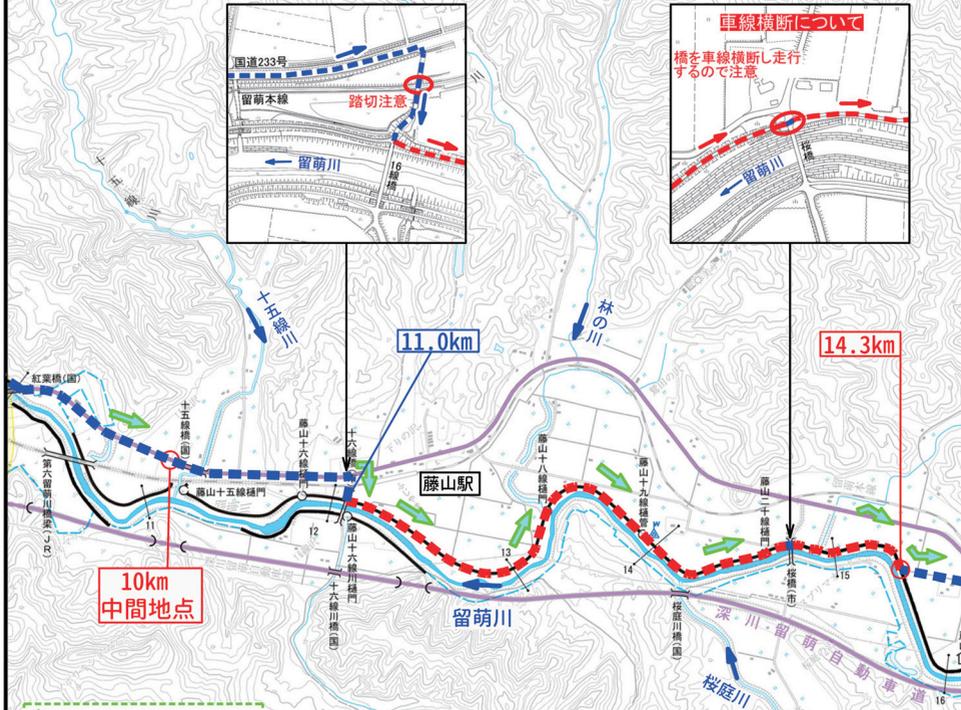
留萌川の新たな魅力発見

水辺のサイクリングは
 美しい景観がポイントだMO!
 水面に吹く爽やかな風を
 感じながら快適なサイクリング
 を楽しんでだMO!

旨い! 留萌北海道
 (留萌市プロモーション映像)
 (提供: 留萌観光協会)



留萌川のサイクリングマップ(留萌市街地～留萌ダム) 2/2



走行経路
 ← ルルモツベ大橋
 → 留萌ダム

■ ■ ■ 一般道路 11.5km
 ■ ■ ■ 河川堤防 8.2km

留萌川の景観といきもの



堤防上の道路や河川敷内の道路利用者の方へのお願い

本ルートに含まれる堤防上の道路や河川敷内の道路は、自転車専用道路ではありません。また、洪水時などの防災活動や日常の適切な河川管理を行うために河川管理者が整備しており、関係車両等も通行する道路であるため、自転車走行車以外にも多くの方が利用しています。

そのため、ルート上に車止めの柵等が設置されている箇所や舗装路面に穴ぼこ等が生じている場合もありますので、走行する際には、道路の状況や周囲の歩行者等に十分ご注意ください。

留萌川流域の概要

流域面積 : 270 km² 流域内人口 : 20,295 人
 幹川流路延長 : 44km 関係市町村 : 留萌市

留萌地域PR動画
 (提供: 留萌観光連盟)



留萌川の歴史と治水事業

〈製作〉 国土交通省北海道開発局 留萌開発建設部 治水課

〈監修〉 留萌市教育委員会 生涯学習課

川へ行こう！川を楽しもう！



かわたび
ぼっかいどう

<https://kawatabi-hokkaido.com/>

